

## 6.2 教育・研究指導のあり方

### 進捗状況報告

**【6.2教育研究指導のあり方】**  
現在は夏期集中で行われている「教会実習」や「臨床牧会実習」の内容や開講形態を精査し、さらなる充実化を検討している。

**【6.2.3社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮】**  
主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ「基礎科目群」（学部科目と合併）を開設し、社会人学生がその課程修了に要する期間の短縮化を図った。また、「外国語専門書講読」を開設し、外国語学力の不足を補うこととした。

**【6.2.4研究指導等（学生の研究活動への支援を含む）】**  
前期課程、後期課程共に、「学位取得までのプロセス」を作成し、学生に公開した。その中で、研究計画書（前期課程においては2年、後期課程においては3年）や年次計画書、年次成果報告書の作成・提出を義務づけ、指導教員の指導を受けながら、論文作成に向かって明確な研究計画を立てるよう促すこととした。  
前期課程においては、2008年度入試（2007年度実施）より、優秀な学生の大学院進学を促すために、神学部からの内部進学における学科試験免除制度を導入した。  
後期課程における学位（博士）論文作成に伴う支援策として、学会発表に対する補助制度を設けた。2007年度は1名がこの制度を利用して補助を受けた。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

FD活動については、「6.3教育方法のあり方」や「6.5教育の質の向上」に記述があるので、参照されたい。

### 学内第三者評価

「基礎科目群」を設けて修士在学年限の標準化を図ったこと、「学位取得までのプロセス」を公開したことなど一定の改善の成果が認められる。これらを実践していく中で、細部の改善に努めることが期待される。  
認証評価結果の総評に「FD活動の取り組みは緒についたばかりであるが、神学部との合同であるために研究科の授業に即した内容につき、討論する機会が不足しているなど、問題がある。」と指摘を受けている。この点について、記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
研究指導において、年次計画書・年次成果報告書の作成・提出の義務化、内部進学における学科試験免除制度導入、学会発表への経済的支援などが実施に移されて、改善が進んでいると評価できる。